



感動の輪が世界中に広がった
オリンピック。
私達も、喜び・感動・笑顔の
輪を広げ、つなげたい。

トピックス

ゆい福祉基金 わなげ大会…………… P2
 地域の福祉拠点として
 設備整備への助成・寄贈へのお礼…………… P3
 家族の会・家族介護者教室…………… P4

ボランティアさんとのなが〜いおつきあい
 お世話になっています…………… P5
 お知らせ・苦情解決・編集後記…………… P6



スポーツを通して地域と輪で話と和を

地域の方と一緒に
大盛り上がり!

ゆい福祉基金 わなげ大会 開催!



ゆい福祉基金で、子どもからお年寄りまで参加できるスポーツ大会を開催し、スポーツを通して地域の皆様と交流したいと検討したところ、誰もが一度はやったことがあり、幅広い年齢層で楽しめる「ワナゲ」となりました。

「ワナゲ」はスポーツというよりも遊びのように思いますが、調べてみると公式大会もあるらしく、その精神は、『輪で、話と 和を』だそうで、“ゆい福祉基金で、地域の皆様と交流する”という趣旨にぴったりの競技だということになりました。

また、大会前日に「今年の漢字」が『輪』に決まり、当日は大いに盛り上がりました。

大会は3人一組のチーム対抗、トーナメント制で行いました。ゆいの里からは、特別養護老人ホームから11チーム、グループホームは8チーム、ケアハウス3チーム、デイサービス“ひまわり”から2チーム。大会まで各チーム、練習はもちろん、応援の衣装、横断幕作りなどにも取り組み、大会前から盛り上がり、皆さん心待ちにされていました。

また、地域からは、毎月開催している「ゆいの里介護予防教室」や「鳩の森いきいき広場」、近隣の「守山学園」からも参戦下さいました。

職員や、職員の家族、次年度からゆいの里の職員になる内定者も参戦し、それぞれユニークなチーム名が出揃いました。

会場の地域交流ホームには、総勢114名、プレーヤー全32チーム96名、子どもから車いすのお年寄りまで、幅広い年齢層が一堂に会し、ものすごい熱気でした。

予選は1レーンに2チームごとで対戦、本戦目指して熱戦が繰り広げられました。負けたチームも仲間チームの応援に力が入ります。グループホームはお揃いの手作りカチューシャとポンポンで大応援団です。

予選終了後の休憩時間には、大きな肉まん、ホットカルピスが振る舞われ、おなかも心も温まり、力もみなぎり、本戦のスタートです。

見事、優勝決定戦まで勝ち抜いたのはケアハウス「きずな」チームと特別養護老人ホーム別館「チームいいとも」チーム。

敗退し、ギャラリーとなった一同の見守り中の決勝戦。「緊張して思うように投げられなかった」というケアハウスチームを破り、別館「チームいいとも」が見事優勝されました。



これまでゆいの里では、さまざまな行事を行ってききましたが、今回のように地域の方から各サービスのご利用者様、職員などが一堂に会して同じことをするという行事は初めてのことでした。年齢やハンディキャップに関わらず、皆さん一生懸命輪を投げ、応援し、共に歓び合い、素晴らしい大会になり、職員も元気と感動を頂きました。

これからも、さまざまな企画を通し、地域の皆様との交流を深めていきたいと思っております。





地域の福祉拠点として



～災害時に備えた取り組み～

ゆいの里では、隣接している笠原自治会・開発自治会と「災害協定」を結んでいます。災害発生時には、消火活動や避難誘導のお手伝いをお願いしたり、地域に避難勧告の指示が出た場合には、福祉避難所と同じ機能（介護が必要な「要支援」「要介護」の方の受け入れ）をさせていただくことになっています。

また、福祉教育ゾーンのまちづくりパートナーシップ協定に基づき、近隣の障害者施設や児童養護施設、高等学校と定期的に会議を行っています。毎回地域貢献や子供の育成支援などについて話し合っていますが「防災」についても話し合い、施設同士の防災訓練を見学しあったり、備蓄品や災害用品の情報共有を行ったり、4施設間での緊急連絡表を作成し、夜間でも連絡が取れるようにしたりと、近隣施設が共に支え合う仕組みを作っています。

昨年末は、滋賀県の助成を受け、震災時に貸出し可能な小型自家発電機（写真①）を購入しました。この機器は力セットボンベが燃料で、携帯電話などの充電ができ、連絡手段を確保する事もできます。

また、今年度は、LPガスをボンベ式からタンク式（写真②）に更新しました。館内のガス配管が破損しても、緊急時供給弁（写真③）により、災害時の炊き出し等が可能になりました。

これらを利用し、災害が起こった時には、地域の皆様の福祉拠点となるよう、努めていきたいと思っております。



写真③ 緊急時供給弁



写真② タンク式LPガスボンベ



写真① 小型自家発電機

**設備整備への数々の助成・寄贈、
ありがとうございました！**

● 公益財団法人JK A様より助成（百八十七万五千円）を受け、短期入所送迎及び受診用の福祉車両を新しい「トヨタヴォクシー」（車椅子2台乗車）に更新する事ができました。

● 滋賀労働局様による介護労働環境向上奨励金の助成（三百万円）を受け、既設特養の二階に設置されていた特殊浴槽（寝台浴槽）を最新のものに更新する事ができました。

● ケアハウスゆいの入居者、古田榮一様より、軽自動車「日産モコ」の寄贈を受けました。

助成を頂いた皆さまに感謝の気持ちを表すとともに、法人の大切な資産として大事に使用していきたいと考えています。



日産モコと寄贈者の古田榮一様



最新の特殊浴槽



トヨタヴォクシー

—家族様との繋がりを大切に— 特別養護老人ホームゆいの里「家族の会」

ゆいの里の「家族の会」は、平成7年に開催した『4世代運動会』をはじめ、毎年行うご家族参加型行事をきっかけに、平成16年に発足しました。その後、年2回を基本として、ご家族様の興味関心のある内容を取り上げての講習会とご家族様、職員との交流を図る茶話会をしています。

最近ではシリーズで「ゆいの里での取り組み」について紹介することで、よりゆいの里の事を知って頂けるよう努めています。また、茶話会のご家族様同士、職員との会話に華が咲き、いつも賑やかな雰囲気で開催されています。

回を重ねるごとに参加される家族様も増えてきています。



今後の「家族の会」は、“施設主体”の会ではなく、“ご家族様主体”の家族会として、第三者的な立場でゆいの里のサービス等についてご意見いただけるように働きかけています。

また、ゆいの里を退所されましたご家族様にも、夏祭り等の行事の案内をする事で、繋がりを大切にしていきたいと思っています。そこから、退所されたご家族様で構成されるOB会を立ち上げ、色々なご意見が頂けるようになればと、大きな目標を持っての取り組みを行っています。

和 やかに 話 もはずみ 地域に広がれ介護の 輪

—学び語らい介護者の集い— デイサービス「家族介護者教室・家族会」

毎年3回、守山デイサービスと幸津川デイサービスが共同で「家族介護者教室・家族会」を開催しています。

この「家族介護者教室・家族会」にはゆいの里の両デイサービスはじめ、他の居宅系サービスのご利用者様のご家族様はもちろん、在宅で介護をされている地域の方にも「広報もりやま」や有線放送、公民館へのポスター掲示などでお知らせし、広くご参加いただいています。

2部構成になっており、1部は認知症や介護技術など、皆さんの関心の高い内容を選び、日頃の介護に少しでも役立てて頂けるよう一緒に勉強していただいています。途中、会話の緊張を解くため、デイサービスで普段しているゲームなども取り入れています。



2部は、自宅での介護の困りごとや悩みなどを職員やご家族様同士で話せる場として茶話会を開催しています。

職員が相談にお答えすることよりもご家族様同士の繋がりを大事にしており、『うちのおばあさん、おじいさんだけじゃない』『しんどいのは自分だけではないんだ』と共感されたり、『こんなふうに乗切ったよ』『こんな方法を試したら?』と介護方法を共有されたり、連絡先を交換されて日頃から支え合っている関係作りができたりと、毎回みなさん時間を忘れて語り合われています。

これからも「家族介護者教室・家族会」を継続し、介護されている方の介護負担を少しでも軽減できるよう、また、介護を必要とされている方も、安全に安心して家での生活を続けていけるようお手伝いしていきたいと思っています。



デイサービスの見学

茶話会

ボランティアさんとの なが～い おつきあい

ゆいの里は、昭和61年の創設以来、たくさんのボランティアさんに出会い、支えられてきました。

このボランティアさんの輪の始まりは、故廣田良初代園長がたくさんの方々に施設に足を運んで、身近な存在に感じてもらいたいとの思いで「ちよっとうちにお茶しに來ない？」と声をかけ開かれたお茶会がきっかけでした。その後、「お茶をたてるのは苦手だけど歌ならできるかな」というようにそれぞれの特技を生かしたボランティア活動の輪が広がって行きました。

又、平成6年には、地域福祉推進室をスタートし、ゆいの里の職員もどんだん地域に出て行き、栄養師による料理講座やデイサービス職員によるレクリエーション活動等、専門性を生かし地域の皆様に役立つ活動を開始しました。そうしたサロンへの参加や出前講座をきっかけに地域の中でも「自分たちにもできるかも」とボランティア活動を開始して下さるグループがいくつも誕生しました。今もゆいの里に來てくださっているボランティアさんのいくつかが、その時からスタートしています。

ボランティア活動を続けて下さっている皆さんにお話しを聞かせて頂く中で、ボランティア活動を続けやすいポイントの一つは、「一緒に活動する仲間がいること」と教えて頂きました。

現在、ゆいの里では幅広い世代に声をかけ、気軽に施設に來ていただき、一緒に活動するきっかけ作りとして、ボランティア交流会や料理教室もスタートしています。

これからも、今來てくださっているボランティアさんを中心に地域に、広く活動の輪が広がりますように...
今までも、これからも長くのお付き合いで、ボランティアさんと共にゆいの里も歩いていきたいと思っております。



交流会



料理教室



お茶会
ボランティアさん

昭和61年から活動して下さっています。今年度、滋賀県知事表彰を受賞されました。

お世話になっています

～平成25年度中、來てくださったボランティアさん

〔食事・おやつ作り〕

喫茶グループ(手作りおやつ)・太陽グループ(秋刀魚炭焼き等)・カレー丼

〔環境設備・縫い物〕

小さな会・倫理研究所・こうあん(草引き)・河西学区(空気入れ)カトリアグループ・手仕事の会(縫い物)・守山野洲地区労働組合・湖南消防本部・速野日赤奉仕団・河西日赤奉仕団・中洲日赤奉仕団(清掃等)・緑の少年団(鉢植え)

〔レクリエーション〕

正山会(唄・三味線・尺八)・諸頭音楽会・矢車草の会(車椅子ダンス)・散歩グループ・にこにこ紙芝居・江月庵(お茶会)・じゃらん(朗読)・笑顔一座・文化をつなぐ会(ファッションショー・演芸)・なごみ会(大正琴)・元町コーラス・菊扇会(踊り)・さくら会(マジック・踊り)・

四個一友心(マッサージ)・たんぼぼ(童謡)・市三宅江州音頭舞好会・レイカディア大学(歌・踊り)・琵琶湖よし笛アンサンブル(演奏)・中洲幼稚園(歌と踊り)・大人の音遊び(ハンドベル演奏)・守山北高吹奏楽・守山キリスト福音教会(クリスマス会)

〔個人ボランティア〕

キーボード伴奏と歌・ハーモニカ・声楽・ピアノと歌のコンサート・紙芝居・朗読・バイオリン・マジックと歌・彼岸法要・食事準備手伝い・お話し相手・体操・散髪・掃除

以上 平成26年3月末 現在
*グループ名のみ・名称を記載しております。



ボランティア募集しております!



認知症を知る

～認知症って
なんだろう?～

認知症は誰もがなる可能性のある病気です。高齢化が進む滋賀県でも約4万6千人が認知症になっていると言われています。年を取ると、誰もが人の名前をすぐに思い出せなくなったり、物をどこにしまったか忘れてしまうものです。認知症は、その様な加齢による物忘れとは違い、正常だった脳の機能が徐々に低下する病気です。では、加齢による物忘れと認知症による物忘れとはどう違うのでしょうか？

加齢による物忘れの場合↓

「お昼ご飯に何を食べたか思い出せない」など出来事の一部を忘れる。ヒントを与えられると思い出せる

認知症の場合↓

「お昼ご飯を食べたこと自体忘れる」など出来事の全体を忘れる。ヒントを与えられても思い出せない

「ゆいの里認知症出前講座」

ゆいの里のスタッフが「認知症」のちょっとした相談から研修会までお手伝いします。自治会・婦人会・老人会・職場の研修会の機会に「認知症」について一緒に学んでみませんか？もちろん個別相談もOKです。気になる事があれば、お気軽にご相談下さい。

申し込み・お問い合わせ

ゆいの里地域連携室

☎077-584-2156 担当：白井



ひとりて悩んで
いませんか？

おいしいね

やわらか〜い口当たり！里芋ぼたもち（材料4人分）

ご用意いただくもの

- 米……………1・5カップ
- 里芋……………200g
- あん……………200g
- きなこ……………適量
- 砂糖……………適量
- 塩……………適量



【作り方】

- 1 米を普通の水加減でつけておく。
- 2 里芋をあらって皮をむく。細かく切り、塩少々を入れ米と一緒に炊き上げる。
- 3 米が炊きあがったら、すりこ木でつき、つぶして適当な大きさにちぎって丸める。
- 4 あんこで半分を包みまぶす。
- 5 残りの半分にきなこの味を調えまぶす。

栄養士より
昔、もち米が大変貴重なものだった時、もち米のかわりに里芋でおはぎを作っていたそうです。芋とご飯で作るので柔らかく食感で、胃もたれもしにくいのです。

ぼたもちとおはぎは同じものです。ちなみに「ぼたもち」春から夏にかけて食べる。「おはぎ」秋に食べる」と、春は「牡丹」の花が咲くから、秋は「萩」の花が咲くから、食べる時期により言い方がかわるそうです。

編集後記

ゆいの里から見ると比良山からも春の訪れが聞こえてきました。又、オリンピックの「輪」で、日本中が、そして世界中が歓喜にわいた一年でした。

今号の「輪をつな号」は、ゆいの里とご利用者さま、ご家族さま、ボランティアさま、たくさんの地域の皆さまとの「輪」を大切にしたいとの思いで名付けました。

今年度開催した「ゆい福祉基金・わなげ大会」では、スポーツを通じてたくさんの方々と「輪」をつなぐことが出来ました。今後も、ゆいの里は、地域の福祉拠点として、又、防災拠点として、様々な「わ」を発信し、皆さまと共に歩んでいきたいと思っています。

苦情解決について

今年度頂いた苦情を報告します。

1 受診・入院・退院に関すること(三件)

【内容】

ケアの対応、入院時の対応、退院後の対応が納得できない。

【解決結果】

一つ一つ説明させていただき、改善できる点については改善を進めることを伝え謝罪した。

2 ケアに関すること(一件)

【内容】

その日、体調が悪かったのに職員が手伝ってくれなかった。

【解決結果】

自宅に伺い、お詫びし、状況を確認した上で、今後は体調に合わせて対応させていただくことを伝えた。

慈恵会では、「苦情は宝」と受け止め、日々サービスの改善に活かせるように取り組んでいきます。

- ◆特別養護老人ホームゆいの里
- ◆ショートステイゆいの里
- ◆グループホームゆい

- ◆ゆいの里守山デイサービスセンター
- ◆守山市立幸津川デイサービスセンター
- ◆ゆいの里訪問介護ステーション

- ◆ゆいの里居宅介護支援事業所
- ◆ケアハウスゆい
- ◆すこやかサロン事業

社会福祉法人慈恵会 ゆいの里

TEL.077-585-4533

〒524-0103 滋賀県守山市洲本町1番地

FAX.077-585-5675

●代表 E-mail home@yuinosato.or.jp

●ホームページ <http://www.yuinosato.or.jp>

*写真の掲載許可はいただいております。 *ご意見・ご感想は「ゆいの里」までお寄せください。



QRコード